高崎経済大学論集　第61巻　第1・2合併号　2018　49～69頁

在イスタンブル写本コレクションの形成：ファーティヒ、アヤソフィヤ・コレクションを中心にして

山　下　真　吾

The Formation of Manuscript Collections in Istanbul: Fatih and Ayasofya Collections

Yamashita Shingo

Summary

In this paper, we compare and analyze catalogues belonging to two manuscript collections (Fatih and Ayasofya collections), now held at the Süleymaniye Manuscript Library in Istanbul. The formation of these collections—especially that of Fatih collection—can be traced diachronically, due to the extant catalogues which record their manuscripts at each point in their history. The development of these libraries can be divided into two basic phases: 15th to 18th centuries and the period since the 18th century. In the first phase, the Fatih Library was established as a medrese library, which held books mainly pertaining to religious sciences. And in the 18th century, the Sultan Mahmut I built libraries at the Fatih Mosque and the Ayasofya Mosque, and donated various types of books pertaining to genres such as literature and history, in addition to medrese type genres. Moreover, from the 18th century onwards, commentaries and super-commentaries increased in their number and variety, while the texts that would be commented upon remained stable. This trend suggests that the existence of standard texts provided the consistency of intellectual tradition and the common foundation of knowledge. On the other hand, by learning a wide variety of commentaries and super-commentaries, it became possible to increase the amount of the informations and cultivate a multifaceted perspectives.

はじめに

1．問題設定

ある思想、あるいは学問分野―例えば歴史叙述など―の展開を、社会的・文化的コン

テクストとの関連において考察した研究は少なくない［e.g. Murphey 2009］。この時、読者や書籍の流通といった問題との関連性が重視されることもある。例えばバーキー・テズジャンは、オスマン朝期に著された歴史書のポピュラリティを現存写本点数との関係で論じている［Tezcan 2007］。一方、読者や書物に注目した歴史的研究も多く著されている。欧米における研究史については、シャルチエ［1996］が詳しい。また日本における研究としては和田［2014］などがある。

中東イスラーム圏における研究としては小杉［2014］がある。また、アラビア語圏における書物と図書館の歴史を扱った諸研究がある［e.g. Pederson 1984］。また、ネリー・ハンナは近世エジプトの読者と読書の歴史を明らかにした［Hanna 2003］。そして、クリストフ・ノイマンは、オスマン朝社会における書物受容について考察しながら、写本中心の同社会における専門職としての写字生の不在が、書物の受容者自らによる書写の一般性を意味したと論じている。ノイマンは、書物の受容の一形態としての朗読、および文献の本文に盛んになされた注釈の重要性にも触れている［Neumann 2005: 59-61, 69］。

また、以下でも扱うが特にオスマン朝史の分野では個人の蔵書や図書館コレクションを調査した定量的研究が数多くなされている。この方面からのアプローチは、書物受容の基盤となる写本の流通やその収集の問題を明らかにする上で大きな役割を担っていると考えられる。従来、図書館研究においては図書館の組織面の検討が主であったが、当該の図書館設立時の文書にコレクションの内容が記載されている場合にはそれが発表されてきた。しかし、多くの研究では設立時の一時点の蔵書構成が明らかになるのみで、また個別の図書館の蔵書分析が主である。これに対して、現在スレイマニエ図書館に収蔵されているファーティヒ・コレクション（成立15世紀）とアヤソフィヤ・コレクション（成立18世紀）は、イスタンブルで最大級のものである。また設立時からのカタログが時代ごとに複数点現存している。特にファーティヒ・コレクションは15～19世紀という長期にわたる通時代的な変遷を追うことが可能であり、ファーティヒ、アヤソフィヤという代表的なコレクションの比較を通じて、イスタンブルにおける図書館コレクションのあり方やその変化についての重要な示唆を得ることが可能になるのである。

２．オスマン朝期の図書館についての先行研究

読書史や書物の歴史を明らかにする上で重要となるのが、１）写本の流通にかかわる研究、そして、２）写本コレクションの研究である。まず、写本の流通にかかわる研究として挙げられるのが、イスマイル・エリュンサルによるイスタンブルの書籍商の研究である［Erünsal 2013］。しかし、実際の写本の流通過程については史料上の制約もあり、体系的な研究はまだないのが現状である。

次に、写本コレクションの研究としては、個人コレクションの研究と図書館研究がある。個人コレクションについては、カーディー法廷による遺産目録を利用し、個人の財産中に含まれる書籍を列挙した研究が挙げられる［e.g. Anastassiadou 2000; Hanioğlu

2008］。図書館研究としては、主要な例を挙げるならば、オスマン朝において設立された図書館を、組織面を中心に網羅的に扱ったイスマイル・エリュンサルの研究がある［Erünsal 2008］。この他、アルバート・ディートリッヒによるアナトリアの図書館の研究が見られる［Dietrich 1967］[1]。

そして、本稿で取り扱うファーティヒ、アヤソフィア両図書館の研究であるが、まず前者については、スヘイル・ユンヴェルとファフリ・ウナンのものが挙げられる［Ünver 1946: 51-60; Unan 2003: 68-76］。この両者は、ファーティヒ・モスクを中心とした複合施設の研究において、図書館の組織・制度面を明らかにしている。一方、アヤソフィヤ図書館については、アフメト・キュチュクカルファが、その建築史上の意義を中心に解説している［Küçükkalfa 1983］。また、ギュナイ・クトが、カタログの史料紹介及び貴重な蔵書の紹介を行っている［Kut 1999］。そしてエリュンサルは、図書館の通史の中で、両図書館に触れている［Erünsal 2008: 104-110, 213-217, 221-224］。これに関連して、両図書館のカタログの研究がある。ファーティヒ・コレクションについてはエリュンサルが、ファーティヒ図書館に置かれていたコレクションについて記録した複数のカタログを発見し、これらを紹介している。またアヤソフィヤ・コレクションについてはクトが、アヤソフィヤ図書館の蔵書カタログの史料紹介を行っている［Erünsal 1996; Kut 1999］。

上述の諸研究においては、図書館研究は制度や組織面が中心であり、また、カタログ研究は史料紹介の性格が強く、コレクションの内容の詳細までには立ち入っていない。そして、ワクフ文書を使用した研究では、ワクフ設立時の一時点のコレクション構成が明らかになるのみである。このため本稿では、イスタンブルの図書館コレクションの在り方や、その時代間の変化についての手掛かりを得るために、ファーティヒ、アヤソフィヤ図書館の蔵書カタログを比較分析する。そしてそれによってそうした変化の背景にある、あるいはその結果としての社会の文化的・学術的連続性や発展についても一定の示唆を得ることができると考えられる。次節以下の本論では、まず上記両図書館の設立と発展をまとめ、利用する史料および書誌・著者情報について解説した後、その蔵書コレクションの形成を記述・分析する。

Ⅰ．ファーティヒ、アヤソフィア図書館の発展

既に述べた通り、本稿で中心的に分析するのは、ファーティヒ図書館とアヤソフィヤ図書館の写本コレクションである。この両図書館を特徴づけている３つの点がある：１）まず、王朝によって設立されたワクフ図書館という点であり、２）次に、コレクションの基礎としての宮廷蔵書という点であり、３）そして、メドレセ（大学）図書館あるいは公共にひらかれた図書館という点である。

1　この他、例えば以下の研究がある［Parmaksızoğlu 1959; 阿久津 2002］。

まずワクフについて簡単に触れておきたい。ワクフとは、個人がその所有物の所有権を停止し、その財産からの生産物や利益、あるいは財産そのものが貧しい者たちや公共の福祉のために供される制度をいう。ムスリム世界においては伝統的に学校、病院その他の公共施設がワクフ制度の下に運営されてきた。そして図書館（施設および本の寄進）もこの例外ではなかった[2]。

次に、上記両図書館を検討するにあたって重要なのは、その設立にあたってオスマン朝宮廷の蔵書が寄贈されたということである。現在イスタンブルの諸写本図書館に収蔵されている写本の中には、オスマン朝の支配者が所有していたという記録を有するものも見られる。しかし、まとまった蔵書コレクションの存在が確認されるのは、スルタン・メフメト２世（r. 1444-46, 51-81）の時代以降となる。メフメト２世がイスタンブルに建設した新宮殿には、小姓たちの教育のため、宝物庫に書物が置かれたとされている。バヤズィット２世時代（r. 1481-1512）に作成された目録では、この宮廷蔵書の総数は5700冊、7200タイトルを数えた。宮廷の蔵書は、寄贈などよって増補され、諸図書館に移管された［Baykal 1953: 43, 1958: 77; Ünver 1970: 291-292; Maróth 2003: 111-112; Reindl-Kiel 2009: 43-49, 80-87］。

上記のカタログからは、オスマン朝宮廷に様々なジャンルの本が多数所蔵されていたことがわかる。16世紀初頭の段階で、宮廷には、クルアーン注釈学、伝承学、法学といったメドレセ型のジャンルの他に、文学、歴史、理数系の書籍も多く揃っていた。文学ジャンルでは、アラビア語、ペルシア語、トルコ語で編まれた詞華集が多くを占める。また、歴史書においては、預言者伝、伝記作品、人物事典、オスマン朝史などが見られ、アラビア語、ペルシア語で書かれた著名な歴史書も揃えられていた。数理（riyâzî）、自然（tabiî）科学では、化学、算術、幾何学、天文学の書籍が含まれた［Erünsal 1988: 189-190; Maróth 2003: 115-129］。

そしてメフメト２世は、コンスタンティノープル（イスタンブル）の征服後、同都市にファーティヒ・モスクの建設を開始し、1470年にこれを完成させた。そしてこのモスクは、複合施設（külliye）と呼ばれる付属施設群を伴っていた。この施設群には、８メドレセと呼ばれる８つの学寮（semâniye medreseleri）、旅行者等が宿泊するための施設（misâfirhâne）、貧者などのために食事を提供する救貧院（imâret）、学生のための食堂（aşhâne）、公衆浴場（hammâm）、初等教育を行う学校、太陽の高度から礼拝などの時間を報せる係官の詰所（muvakkithâne）、キャラバン交易を行う商人が投宿できる隊商宿（Kervanserây）などがあった［Ünver 1946: 20-24］。これらの中で８メドレセは高等教育を担う点において今日の大学に相当するものであった。メフメト２世は、メドレセの教授と学生のために宮廷の蔵書を寄贈し、これがファーティヒ図書館の基礎となったのである。メフメト２世が設立したモスクのワクフ文書の一節には下記のような記述が見られる：

2　ワクフ制度の概要については、長谷部［2017: 29-31］などを参照。また書籍ワクフの研究として Akgündüz [1999]がある。

（スルタン・メフメト２世は）高貴なるモスクの西側において一角を設けさせた。高貴なる諸メドレセにおいて諸学問を教える教授たち (müderrisîn) や諸学の習得を行う能力ある学生たち (tâlibîn)、あるいは資格を持つ他所からの学者たち (ulemâ-i müstahikkîn) のうちで（本を）必要とする者たちのためにワクフされた書籍の書庫となるようにということで［Ünver 1946: 52］。

上記の一節から、これら書籍が８メドレセのために寄贈されたものであったことが理解される。16世紀中葉、スレイマン１世時代（r. 1521-1566）に作成された蔵書カタログの序文の一節からも同様のことがうかがえる。

メフメト・ハーンは・・・諸々の素晴らしい文献や、種々の学問に関する稀少な書籍を収集したが、これは一人の人が決して集め得なかったほどの量である。そしてこれらの書籍を、コンスタンティノープル (balada Qustantinīya) にご自身が建設されたモスクに置かれた。・・・そしてこれらの書籍を八メドレセの人々 (ahālī Madāris al-Thamān) のためにワクフとして寄進された［D. 9559: 1b］。

上記のような蔵書は８メドレセの教育用として後代にいたるまで受け継がれた。一方、17世紀初頭以降、イスタンブルでは公共に開かれた図書館の開設が相次ぐこととなる。これら図書館の在り方については、18世紀後半にスウェーデンの在オスマン大使として活躍し、オスマン朝の制度や歴史、文化を詳細に記したイグナティウス・ムラジャ・ドーソンが詳述している［d'Ohsson 1788: 487-494］。

ドーソンによれば、諸スルタンが建設したモスクや、主要都市に位置するモスクには、図書館が併設されていた。イスタンブルだけでも35の図書館があったという。これらモスクのうち最も重要なものは、アヤソフィア・モスク、メフメト２世モスク（ファーティヒ・モスク）、スレイマン１世モスク、シェフザーデ・モスクなどであった。この他、モスクからは独立して、イスタンブルの各地区に設立された図書館が、キョプリュリュ図書館、ラーグブ・パシャ図書館などであった。これらの図書館は公衆が利用（usage du public）するために建設された第一級の図書館であった。

これら図書館の建物は蔵書数が最も少ないものでも1000冊を有し、多いものになると5000冊を保有していた。様々な形態の写本は、赤、緑、黒の皮革表紙（マロキン）によって綺麗に装丁されていた。それぞれの図書館には３～４人の司書がおり、来訪者を丁寧に出迎えた。みなが好きな本を開いて読み、ノートを取り、あるいは最初から最後まで書写した。ただし、図書館の中でのみ閲覧することができ、貸出はしていなかった。

これら図書館にはアラビア語、ペルシア語、トルコ語で著された作品が一般的に集められた。歴史書も大変多く、東洋の歴史のうち預言者ムハンマドの伝記、諸カリフの伝記、ムハンマドの家系の話、有名な支配者や東洋の偉大な人物たちの伝記を読むことがで

きた。

また、諸々の文学のうちで最も好まれた作品や、クルアーン、法学書などは、非常にきれいな白い紙の上に、きわめて丁寧に書かれた。また、ページごとに罫線が金箔で装飾されていたり、章節の冒頭が装飾された字で書かれていたりした。こうした装飾や文字の美しさが写本の価値を増すと考えられていた。

いくらかの本を持っている学者、政府高官、文人などは慈善によって世に知られるために図書館を遺そうとした。彼らは、宗教的感情からのみならず、個人的な関心から、あるいは名を残そうという思いから本を選んだのである。以上少し長くなったが、ドーソンによる説明は極めて詳細で、色彩に富んでいるため要約して紹介した。

そして上記の説明の中にも登場したが、この時代に建設された重要な図書館の一つとして名前が挙がっていたのが、1740年にマフムート１世（r. 1730-54）によって建設されたアヤソフィヤ図書館である。アヤソフィヤは、７世紀のビザンツ皇帝ユスティニアヌスによってキリスト教の大聖堂として創建されたが、オスマン朝時代になるとモスクとして利用され、その重要性を誇った。

マフムート１世による図書館は、アヤソフィヤの一階、南側回廊の壁に接する形で造られた。内陣側からみた図書館の壁は、列柱と共に、真鍮製で唐草文の格子細工によって飾られている。また、閲覧室の壁面は、イズニクやキュタヒヤで生産された磁器製の彩色タイルで覆われている。回廊から観音開きの扉を通って入ると、左側の扉からは閲覧室に入ることができる。閲覧室には、ソファがしつらえられ、書見台などが置かれていた。閲覧室からは、壁面がやはりタイルで装飾された回廊から書庫に行くことができた[3]。アヤソフィヤ図書館のカタログの序文の一節には、図書館建設の経緯が述べられている：

> スルタン、マフムート・ハーンが・・・・・・・古くから礼拝が行われてきており、証言する人々の集う場ともなり、（金曜礼拝のために）多くの人々が集う高貴なるアヤソフィヤ・モスクを修復なされた時に・・・・・偉大なる父祖と高貴なる先祖たちのうち誰一人として考え付かなかった大変な善行を行うことを以って・・・・・学問を習得すること（taleb-i ulûm）に意欲を燃やす利用者たちが利用することで、目的に到達し、学問の泉から流れ出る水を汲み取ることが出来るようにと・・・・（建設された）スルタンの図書館 (kütübhâne-i hümâyûn) に寄贈した蔵書のカタログである［YF 25-1: 1b］。

マフムート１世はまた、1155（1742）年にファーティヒ・モスクにも図書館を建設した。この図書館はモスクの外壁に接する形で建設され、図書館の入り口はモスク内に位置していたという。アヤソフィヤ図書館と同様、盛大な式典によって開館したファーティヒ

3　アヤソフィヤ図書館の構造および装飾は今日でも確認することができる。同図書館の建築的特徴については次の文献を参照［Küçükkalfa 1983; Malkoç 1956: 11］。

図書館には、宮廷から新たに寄贈された図書、ファーティヒ・モスクに置かれていた蔵書などが一か所に集められた［Erünsal 2008: 221-222］。マフムート１世図書館のカタログの一節には、次のような記述が見られる：

> ガーズィーであるスルタン、マフムート・ハーン・・・・・陛下は・・・高貴なる学問の重要性を明らかにし、宗教の学者たち (ulemâ-i dîn) の学識を必要な水準に高め、宗教の諸学問を広めることを欲せられたので・・・・・・メフメト・ハーンの高貴なるモスクは、碩学たちの集う所、そして光り輝く諸学問の源泉となっていたため、・・・・・図書館を建設し・・・［YB242: 1b］。

上記両図書館の蔵書は、20世紀に入りスレイマニエ写本図書館の管轄に移されるまで長らく利用されることとなった［Dener 1957: 69-70; Can 2015: 191-192］。

ここまでファーティヒ、アヤソフィヤ両図書館の来歴についてまとめてきたが、その発展は大きく２つの時期に分けて考えることができる。まず、ファーティヒ図書館がメドレセ併設の図書館として利用された15世紀から18世紀初頭までである。そして第二の時期は、マフムート１世によってファーティヒ・モスク、アヤソフィヤ・モスクに図書館が新設された18世紀以降である。このため以下の第３節で見るように、両図書館のコレクションの発展においても、これらの画期が重要なものとなってくるのである。次節では、両図書館のカタログなどの史料、利用した書誌・著者情報についてまとめていく。

Ⅱ．利用する史料および書誌・著者情報

上述したようにファーティヒ、アヤソフィヤ両図書館のコレクションを記録した幾巻のカタログが複数時点にわたり存在している。まず15～16世紀に作成されたカタログについて紹介する。

①　15～16世紀に作成された図書館カタログ

この時代に作成されたカタログとして、まず、バヤズィット２世時代に作成されたファーティヒ・モスクの蔵書カタログが挙げられる［SFTHd 21941B］。在イスタンブル総理府オスマン文書館に収められている同カタログは、1240冊の蔵書を記録し、同図書館の蔵書調査に任じられたメフメト・ブン・アリー＝フェナーリーによって、1495～1512年の間に作成されたと考えられている［Erünsal 1996: 660-661］。メフメト２世とその他の個人によって寄贈された蔵書はジャンルごとに分類されている。その項目は、クルアーン注釈書、伝承集成、法概論、法規則詳説、哲学、アラビア語学であるが、これは典型的なメドレセ型の構成である。

全56紙葉の同カタログは、第１紙葉の裏から第２紙葉の表にかけて序文が書かれてお

り、カタログの作成法や本の設置に関する記述が見られる。そしてカタログ本文においては、各ジャンルに属する本の総数が示された後、その内訳が一冊づつ記載されている。内訳は、各ページごとに二列、6～7段に分けて記載されている。同カタログは、既述したように蔵書調査時に作成されたものであるが、書籍一冊一冊の個体識別を目的とした詳細な記述方法がとられている。

まず複数巻にわたる作品は、一冊ごとに「第1巻、第2巻」というように巻数が記される。次に作品のタイトルが示される。タイトルは多くの場合、作品の正式名称よりはむしろ、正式名称の略や作者名を冠した通称などが用いられる。一例を挙げるならば、『啓示の光輝と解釈の神秘』 *Anwār al-Tanzīl wa Asrār al-Ta'wīl*という作品の場合、蔵書カタログにおいては、通例著者の名をとって『ベイザーヴィーの注釈書』 *Tefsîr Beyzâvî*あるいは、『カーディーの注釈書』 *Tefsîr Kâdî*と記載されている。本文に対する注釈作品の場合も、正式タイトルよりはむしろ本文となる作品のタイトルに「注釈」や「註解」といった表現が冠されることが多い。

次に、完本の場合はその旨が記載される。あるいは、一冊の内容が途中から始まったり途中で終わっている場合は、開始箇所と終了箇所が明示される。例えばクルアーン注釈書の場合、クルアーンの章立てに沿って構成されるのが一般的である。クルアーンは全部で144の章からなり、それぞれの章はさらに節に分かたれている。このため、注釈書の範囲を示すためには、一般に章節単位で示されるのが普通である。あるいは例えば伝承集成や法規則詳説の場合は、「洗浄」「礼拝」「商取引」などのテーマごとに章立てがなされている。このため、章ごとに示されるか、あるいは、章名に加えて開始箇所と終了箇所の一節がそれぞれ引用されることもある。

また、続いて写本を書写した人物の名前が判明している場合はこれが記される。そして紙葉に装飾が施されている場合、その特徴が記述される。写本には多くの場合、扉ページに当たる第1フォリオの裏ページ（1b）の上面に額縁様の装飾（serlevha）が施される。これは通例「額縁は装飾されている」（serlevha müzehheb）と記述される。あるいは豪華写本になると数ページにわたってこうした装飾が施されることもある。こうした場合は、「最初から4ページが額縁装飾」という風に書かれる。あるいは単に「いくつかの紙葉が装飾されている」と書かれることもある。またテキストを囲う枠線がある場合は、その旨が記される。また、欄外に註が施されている場合はその旨が記載される。

また次に、紙葉に使われている紙の種類が記載される。大抵の場合は「サマルカンド紙」か「ダマスカス紙」となっている。前者は中央アジアのサマルカンドで生産されていた紙であり、光沢と厚みがあり、緑がかった濃いベージュ色が特徴である。一方後者は、薄手で白色の紙を指し、ダマスカスで生産されていたことにちなむ。そして表紙の材質や色が記される。最後に寄贈者、紙葉数が書かれる。

バヤズィット2世時代のカタログはこのように詳細な内容を持つが、同様の構成を有するカタログとしてスレイマン1世時代に作成されたカタログがある［D. 9559］。同カタロ

グは1770冊の蔵書を記録し、蔵書調査に任じられたハジュ・ハサン・ザーデによって1560年に作成された。記載内容と記載方法はバヤズィット２世時代のカタログとほぼ同じである。これに加えて、個人による新規の寄贈分が記録されている。

② 18～19世紀に作成されたカタログ

18世紀にマフムート１世が建設した諸図書館のために作成されたカタログは一般的に、８段、２列で項目が記載されている。個々の項目は、下に行くほど行が短い逆三角形の形で書かれている。また図書館が閉架式になったことを反映してか、より簡略化された記述を特徴としている。その記述方法としては、まず巻号とタイトルが記される。そして完本の場合はその旨が記載される。あるいはそうでない場合は、内容の始めと終わりが明記され、そして写本の書写者の名前が続き、本文の書体、当該図書の寄贈者、そして１ページ当たりの本文行数が記される。18世紀のマフムート１世図書館のために作成されたカタログとしては以下のものがある。

アヤソフィヤ図書館の蔵書カタログについてはまず、在イスタンブル・スレイマニエ写本図書館蔵の写本カタログ分類25番の１が挙げられる［YF 25-1］。同カタログは全156紙葉である。第１紙葉の裏ページにカタログの趣旨が記載され、蔵書の内訳はジャンルごとまとめられて、各ジャンルを示す赤インクの題目に続いて記載されている。また、第１紙葉の表ページには、時の政府高官三人による祈願文と署名が見える[4]。これらの人物が職位に合った年代から考えると同カタログは1745年に作成されたと考えられる［SO 1: 63, 4: 1253; KA: 4305; DİA 31: 297-298］。またワクフの監察官に任じられていたハジュ・ハリールによる記録と署名も見られる。

この他、1831年の蔵書点検の際に作成された目録である写本カタログ分類25番の３が存在している［YF 25-3］。またガラタ宮殿に所在し、19世紀中葉に移管された図書のリストを示した25番の４および６がある［YF 25-4, 6］。

ファーティヒ図書館カタログについては、まず、スレイマニエ図書館の寄贈写本分類241番が挙げられる［YB 241］。同カタログは全138紙葉であり、その蔵書はマフムート１世時代に寄贈された図書とメフメト２世時代とに分けて記載されている。第１紙葉の表ページには、政府高官３人による祈願文と署名が見られる[5]。これらの人物が職位にあった年代からすると、同カタログは1743年以降に作成されたと考えられる［KA: 4305; SO 2: 465］。またワクフの監察官であったハジュ・ハリールによる記録と署名がみられる。第１紙葉の裏ページにはカタログの趣旨が記載され、それに続いて各項目が記載されている。また第131紙葉の裏ページ以降はシェフザーデ・モスクから移転された書籍のリストが記載されている。また第138紙葉の裏ページ以降には、1832年のハジュ・ヒュセイン・

4　時のシェイヒュル・イスラームであったムスタファ・エフェンディ、ルメリのカザスケルであったネイリー＝アフメド・ミールザーザーデ、アナトリアのカザスケルであったアブドゥッラー・エフェンディの名前が確認できる。

5　ムスタファ・ブン・フェイズッラー（シェイヒュル・イスラーム）、メフメド・エフェンディ（ルメリ・カザスケル）、メフメド・エミーン＝ボレヴィーザーデ（アナトリア・カザスケル）の名前が確認できる。

エフェンディによる寄贈図書が記録されている。

次に、寄贈写本分類242番があるが、このカタログにはハジュ・ハリールによる記録と署名が見られる［YB 242］。第1紙葉にはカタログの趣旨が記載され、上の241番とほぼ同じ構成と内容を有している。その他、1831年に作成されたメフメト2世寄贈図書のカタログが現存している［YB 244］。また、1829年の蔵書点検の際に作成されたカタログ［YB 243］などが見られる。

19世紀後半のアブデュル・ハミト2世期（r. 1876-1909）には、イスタンブルに所在する諸図書館のカタログが刊行された。アヤソフィヤ図書館とファーティヒ図書館についてもそれぞれ4906冊、5514冊を記録したカタログが刊行されている［HFAs; HFFth］。これら刊本カタログにおける記述方式としては、請求番号が付されているほか、蔵書の巻号、タイトル、著者、書写者、書体、紙葉数、装飾などの特記事項となっている。

以上カタログについて紹介したが、作品や著者名の同定のために、スレイマニエ図書館で筆者が行った書誌的調査の結果も利用した。書誌・著者情報については、17世紀オスマン朝で活躍したキャーティプ・チェレビーがアラビア語で著した『諸文献と諸学の名称に関する疑念の氷解』 *Kashf al-Ẓunūn ʿan Asāmī al-Kutub wa al-Funūn*が利用できる［KZ］。また、アラビア語写本の書誌や著者情報についてはカール・ブロッケルマンによる包括的な研究が存在している［GAL］。また、英語とトルコ語でそれぞれ刊行されている『イスラーム百科事典』も利用した［EI[2]; DİA］。

Ⅲ．ファーティヒ、アヤソフィヤ図書館のコレクション形成

本節では、ファーティヒ、アヤソフィヤ図書館のコレクションの形成と発展を扱う。はじめに、稿末に示した表1は、オスマン朝治下で設立された図書館のうち規模あるいは蔵書の内訳が分る主要なものの一覧である[6]。全体としてみるとコレクションの規模は数十冊から数百冊のものが多い。また、構成としては、注釈学、伝承学、法学といったメドレセ教育に関係の深いものが一般的である[7]。この他、医学書や歴史書が含まれることもある。特に15～16世紀においては、1000冊を超える大型図書館はまだ見られない。

こうした状況において、15世紀後半に設立されたファーティヒ・モスクの図書館は、その規模において特筆されるべきものであることがわかる。コレクション構成としては、注釈学、伝承学、法学、神秘主義、医学、アラビア語学と、メドレセ型のジャンルが中心であるが、宮廷から寄贈された図書を中心として1240冊をそろえる図書館はこの時代としては大規模なものであった。次表には、スルタンによって寄贈された図書のジャンルごとの

6　表を作成するにあたって次の先行研究などを参考にした［Karatay 1941: 17-18; Cunbur 1963: 212-213; Kaleşi 1965: 169-170; Yüksel 1984: 134-147; Çayırdağ 1988: 266-267; Stanley 2004: 326, 329-330; Erünsal 2008: 84-88, 100, 111, 120, 131-141, 155, 162, 172-173, 177, 180, 201, 207, 210］。

7　オスマン朝期におけるメドレセ教育のカリキュラムや使用された教科書については次を参照［Uzunçarşılı 1988: 11-31; Ahmed 2004: 196-206］。

冊数とタイトル数（括弧内）を示した：

クルアーン注釈書92冊　(43)	伝承集成　95冊（51）	法概論　87冊（46）
法規則詳説　336冊（149）	神学　41冊（29）	哲学　13冊　(8)
アラビア語学　89冊　(56)	論理学　13冊（11）	その他　30冊

上表を見ると、法学者養成という性格が強かったメドレセ教育に対応する形で、法の細則について詳解する分野の書籍が300冊超と最大のジャンルとなっている。そして法概論や、啓典であるクルアーンの釈義・注釈としての注釈書、預言者に遡る伝承をまとめた伝承集成がそれに続く。ちなみに後二者は宗教的教義の源泉であると同時に、イスラーム法の法源ともなっている。また、アラビア語で書かれた宗教諸学の書籍を学ぶため、メドレセの学生にとってはアラビア語が必須教養であったが、このアラビア語学に関する書籍も置かれていた。この時代のファーティヒ図書館では、アラビア語雄弁学の書が中心となっていた。そして、神学、論理学、哲学がこれに続いた。

タイトル別にみてみると、オスマン朝で公定法学派とされていたハナフィー派においてよく参照された標準的な著作や、メドレセで教科書として使用されていた古典的著作が多く収められていたことがわかる。例えば、クルアーン注釈書では、12世紀の法学者であったザマフシャリーによって著された『啓示の真理の発見者』*al-Kashshāf ‘an Ḥaqā’iq al-Tanzīl*[8]と、その注釈（şerh）・註解（hâşiye）が多い[9]。次に13世紀の法学者でザマフシャリーを基礎にしてバイダーウィーが著した『啓示の光と解釈の神秘』が続く[10]。この二タイトルだけでクルアーン注釈全体の半数近くを占めている。この他、著名なクルアーン注釈書としてはタバリー、バガウィー、クルトゥビー、ラーズィーによるものが見られる[11]。

また伝承学においては、六伝承集のうち、ブハーリーおよびムスリムの『真正集』*Ṣaḥīḥ* あるいはその注釈が多い［SFTHd 21941B: 6b-10a］。

あるいは例えば、法規則詳説の分野においては、ハナフィー派において古典として重視され本文として多く参照された著作や、それらの注釈・註解が中心となっている[12]。まず、ハナフィー派の古典時代の著作として、11世紀の中央アジアで活躍し、「学祖たちの太陽」の異名をとった法学者サラフスィーによる『大全』*al-Mabsūṭ*が挙げられる。同書は24巻にもわたる大著であり詳細な説明が特徴である[13]。また、バグダードで活躍した法

8　カタログにおいては『発見者』の本文が18冊確認できる。また注釈が 5 冊 3 タイトル、註解が 6 冊 5 タイトル確認できる［SFTHd 21941B: 2b-6b］。ザマフシャリーと著作については次を参照［KZ 2: 1470-1483; GAL 1: 344-350; DİA 44: 235-238］。

9　歴史時代の本文著作に対しては一次注釈としての ‘şerh’ と、注釈に対する注釈としての ‘hâşiye’ が区別されていた。このため、本稿では前者を「注釈」とし、後者を「註解」として呼称することとする。

10　カタログでは『啓示の光』の本文が 8 冊見える［SFTHd 21941B: 3b-6b］。バイダーウィーと著作については次を参照［KZ 1: 186-194; GAL 1: 530-532; DİA 6: 100-103］。

11　カタログではタバリーの注釈書（要約）が 1 冊、バガウィーの注釈書（本文）が 7 冊、クルトゥビーの注釈書（本文）が 2 冊、ラーズィーの注釈書（本文）が 2 冊確認できる［SFTHd 21941B: 2b, 3a-b, 4b-5a］。これらの注釈者と著作については註28, 29, 30を参照。

12　これらの著作や著者については次を参照［Imber 1997: 25-30; Cici 2005: 219-224］。

13　カタログでは『大全』の本文が23冊確認できる［SFTHd 21941B: 22a-23b］。現存コレクションの書誌情報と比較すると、これらは一揃いであったことがわかる。

学者であったクドゥーリーによる『提要』 *al-Mukhtaṣar*が見られる[14]。同書は美しい形式と論理的な配置によって知られている。

12世紀のマルギナーニーはクドゥーリーの『提要』を基礎として『導き』*al-Hidāya*という詳説を著した。マルギナーニーは、『提要』に若干の記述を加えた本文として『導入』*al-Bidāya*という作品を記し、これへの注釈として『導き』を著したのである。この『導き』は広く参照されることとなり、同作品への注釈が多く作られることとなった[15]。

13～14世紀には、先行する本文作品を基礎にして著された諸作品が登場する。その代表例としては、マウスィリーによる『法見解精選』*al-Mukhtār li'l-Fatāwā*[16]、ブルハーヌッ・シャリーアによる『伝承の護り』*Wiqāyat al-Riwāya*[17]、イブヌッ・サーアティーによる『両海の出会う所』*Majma' al-Baḥrayn*[18]、アブール・バラカート＝ナサフィーによる『細部の宝』*Kanz al-Daqāiq*などである[19]。

ここまでスルタンによる寄贈図書の分析を行った。この他、設立後からマフムート1世による増補までの間に、8メドレセの教授などの諸個人からの寄贈によって増補が行われた。例えば、16世紀中葉のカタログからは、ハティーブ・ザーデやカーディー・ザーデなど教授職にあった人物や、オスマン朝高官や女性などからも寄贈が行われていることがわかる。シェイフ・ザーデによる寄贈図書の中には、歴史書や文学書も含まれていた［SFTHd 21941B 34a-53a; D. 9559: 42b-85b; YB 244］。

18世紀に入ると、オスマン朝スルタン・マフムート1世がアヤソフィヤ・モスクとファーティヒ・モスクに図書館を新しく建設した。この段階において、カタログにも、クルアーン注釈、伝承集成、法学など、メドレセの教育課程で使用されるジャンルに加えて、文学、歴史、神秘主義その他の項目が見られるようになる。以下の表は、アヤソフィヤ図書館のカタログにおける書籍のジャンル一覧である［YF 25-1］：

注釈書　320（101）	伝承集成　559（194）	法概論　49（36）	法詳説　533（240）
神学　198（152）	神秘主義　665（437）	文学　461（296）	歴史　605（358）
医学　212（178）	辞書　109（62）	哲学　110（95）	論理学　72（62）
天文・幾何170（115）	算術　26（24）	雄弁学　70（40）	文法　154（109）

それぞれの分野について冊数の多いタイトルを詳しく見てみると、例えば、クルアーン注釈では、ハナフィー派の学者が著した古典的著作としては、ザマフシャリーによ

14　カタログでは『提要』の本文が2冊、その注釈が5冊5タイトル見られる［SFTHd 21941B: 15b, 17b-18b, 21b, 25a-b］。
15　カタログでは『導き』の本文が12冊確認できる。また注釈では、バーバルティーの『助け』 *'Ināya*が6冊、スィグナキーの『極致』*Nihāya*が7冊、イトカーニーの『明解の極点』*Ghayāt al-Bayān*が6冊、その他3冊が見られる［SFTHd 21941B: 14a-26a］。
16　カタログでは『精選』の本文が2冊、その注釈が6冊2タイトル確認できる［SFTHd 21941B: 14b, 15b-16b, 21b, 25a, 26a］。
17　カタログでは『護り』の本文が8冊、その要約が1冊見られる。またサドルッ・シャリーアによる注釈が4冊、アラエッディン・エスヴェドによる注釈が2冊見、その他の注釈が2冊2タイトル確認される［SFTHd 21941B: 14b, 16a-b, 19b-20b, 22a, 24a-25b］。
18　カタログでは『出会う所』の本文が6冊、その注釈が6冊2タイトル見られる［SFTHd 21941B: 15a-16b, 17a, 18b, 20a-21a］。
19　カタログでは『宝』の本文が1冊、その注釈が5冊1タイトル確認される［SFTHd 21941B: 16b, 17b-18a, 20a, 20b］。

る『発見者』の本文が８冊見える。その註解として[20]、クトゥブッディーン＝シーラーズィー[21]やタフタザーニー、ティービー[22]などの著名な著者によるものが記載されている。また、別の古典的本文としてはバイダーウィーの『啓示の光』が20冊見られる。そしてその註解として[23]、スユーティー、モッラー・ヒュスレヴ[24]、サアディー・チェレビー[25]、シェイフ・ザーデ[26]、サムスニーザーデ、シハーブッディーン＝ハファジー[27]などによるものが見られる。

その他、15～16世紀のファーティヒ・コレクションに見られないか少ないクルアーン注釈書や、オスマン朝期に著されたものなども確認される。例えば、初期イスラーム期に活躍し、歴史家として知られるタバリーの注釈書が13冊５セット見られる［YF 25-1: 3b-4a］[28]。また11世紀に活躍した法学者のバガウィーによる注釈書が合計９冊［YF 25-1: 4b-5a］[29]、神学者として知られるファフルッディーン・ラーズィーの注釈書が合計19冊見られる［YF 25-1: 5b-6a］[30]。そして15世紀のエジプトで活躍し、多数の著作で知られるスユーティーによる注釈書が12冊４セット見られる［YF 25-1: 8b-9a］[31]。またオスマン朝16世紀を代表する法学者であるエブッスウード・エフェンディーの注釈書について、１巻本が５冊、２巻本が６冊見られる［YF 25-1: 9b］[32]。その他、ニザームッディーン＝ニーシャープーリー[33]、アブール・バラカート＝ナサフィー[34]、イブン・ハーズィン[35]などの注釈書が見られる。

法学の分野においては、例えば、クドゥーリーによる『提要』の本文が６冊、その注釈が９冊見られる［YF 25-1: 37b］。またマルギナーニーによる『導き』は本文が10冊ある。その注釈としては、『明解の極点』、『助け』など15～16世紀に見られたものが６冊見られる。一方15～16世紀に見られない注釈として、イブン・フマーム[36]、サアディー・チェレビー、バドルッディーン・アイニー[37]などのものが合計９冊確認できる［YF 25-1: 38a-38b］。

20　カタログでは『発見者』の註解が９冊６タイトル見られる［As 25-1: 13b-14a］。
21　クトゥブッディーン・シーラーズィーは、13～14世紀に活躍したシャーフィイー派の学者であり、自然、数理科学にも通じた［GAL S2: 296-297; EI2 5: 547-548; DİA 26: 487-489］。
22　シャラフッディーン・ティービーは14世紀に活躍した学者であり、ザマフシャリーの『発見者』の注釈を著した。そのティービーの注釈に註解を書いたのがサアドゥッディーン・タフタザーニーである［Ahmed 2004: 196-197］。
23　カタログでは『啓示の光』の註解が26冊20タイトル確認される［As 25-1: 14a-15b］。
24　15世紀オスマン朝で活躍した著名な法学者［KZ 2: 1199-1200; GAL S2: 316-317; DİA 30: 252-254］。
25　16世紀オスマン朝においてシェイヒュル・イスラームとして活躍した法学者［DİA 35: 404-405］。
26　16世紀オスマン朝の学者。クルアーン注釈学、法学に優れた［DİA 39: 97-98］。
27　17世紀エジプトのハナフィー派法学者［Maden 2013: 15］。
28　『タバリーの注釈書』の正式タイトルは『啓典の諸節解釈についての解明集成』*Jāmiʿ al-Bayān ʿan Taʾwīl Āyāt al-Qurʾān*である。同書については、英訳と解説が存在する［Ṭabarī 1987］。タバリーの伝記と著作については、とりあえず澤井［2010］を参照。
29　12世紀に活躍したシャーフィイー派の学者。クルアーン注釈学、伝承学、法学の分野で著作を残した［KZ 2: 1726; EI^2 1: 893; DİA 5: 340-341］。
30　ラーズィーについて扱った邦文の研究書として青柳［2005］がある。
31　スユーティーは、15世紀エジプトで活躍した著名な学者である。注釈学、伝承学、歴史学、文学その他の分野で足跡を残した［GAL 2: 180-183; EI2: 9: 913-916; DİA 38: 188-202］。
32　エブッスウード・エフェンディについては Imber [1997: 8-20] を参照。
33　13～14世紀に活躍した学者。クルアーン注釈学、天文学に足跡を残した［KZ 2: 1195-1196; DİA 33: 181-182］。
34　13世紀に活躍したハナフィー派の著名な法学者［GAL 2: 250-253; EI^2 7: 969; DİA 32: 567-568］。
35　14世紀に活躍した学者［GAL 2: 133, S2: 135; DİA 17: 125-126］。
36　15世紀に活躍した学者［KZ 2: 1234, 2034］。
37　15世紀エジプトで活躍した学者。歴史家としても知られる［GAL 2: 64-66; EI^2 1: 790-791; DİA 4: 271-272］。

次に『護り』について、その本文が6冊確認される。その注釈としては、サドルッ・シャリーアによるものが6冊、およびそのトルコ語訳が4冊ある。また、サドルッ・シャリーアの作品に、オスマン朝期の学者がつけた註解が4冊4タイトル確認できる。また、ナサフィーによる『宝』の本文は7冊あり、その注釈が10冊3タイトル確認できる。

そして例えば、アッバース朝期に活躍した法学者であるマーワルディーが、法学的見地から政治体制を説いた『統治の諸規則』 *Aḥkām al-Sulṭānīya*が見られる[38]。オスマン朝期に書かれた法学書としては、まず、モッラー・ヒュスレヴによる『法官たちの真珠』 *Durar al-Ḥukkām*が16冊見られる。また16世紀のオスマン朝で活躍した法学者であるイブラヒム・ハラビーによる『大ハラビー』、『小ハラビー』、『諸海の会合点』は、合計16冊が確認できる[39]。その他、法学者の法的見解（fetvâ）を集めた集成が、古典的作品、オスマン朝期のものを含めて多く見られる［YF 25-1: 40b-49a］。

文学に属する作品群の中では、インドで書かれた動物説話である『パンチャタントラ』からイブン・ムカッファーがアラビア語に翻訳した『カリーラとディムナ』が見られる[40]。また、ハリーリーによって大成されたアラビア語散文文学の珠玉である『マカーマート』がある[41]。そして、古典アラビア語詩の代表者であるムタナッビーの詞華集が確認される。ペルシア語文学では、叙事詩に優れ恋愛物語を描いたニザーミーによる著名な五部作を収めた写本が見られる[42]。また、飲酒詩の伝統に属し、酒と愛をうたい上げたオマル・ハイヤームによる四行詩を集めた『ルバイヤート』がある[43]。また、オスマン朝期のトルコ語詞華集も見られる［YF 25-1: 84b-99a］。

歴史では、預言者伝、世界史、人物事典、王朝史などが見られ、地方史や人物事典が充実している。アラビア語の著名な作品も見られる。例えば、タバリーの著名な歴史書である『諸預言者と諸王の歴史』 *Tārīkh al-Rusul wa al-Mulūk*をはじめ[44]、13世紀の法学者であったイブン・ハッリカーンによる大部の人名録[45]、10世紀の歴史家・地理学者であるマスウーディーによる『黄金の牧場と宝石の鉱山』*Murūj al-Dhahab wa Ma'ādin al-Jawhar*がある[46]。十字軍時代に書かれた歴史としては、イブヌル・アシールの『完史』*al-Kāmil fi'l-Tārīkh*、イブヌル・ジャウズィーの『整序史』*al-Muntaẓam*、スィブト・イブヌル・ジャウズィーによる『時代の鏡』*Mir'āt al-Zamān*がある［GAL 1: 424-425, 661-662; EI^2 3: 724, 752-753］。ペルシア語では、『伝記の友』*Ḥabīb al-Siyar*、ハーフィズ・アブルーの

38　同書の邦訳と解説としては、マーワルディー［2006］がある。
39　著者の名を冠した通称である『大ハラビー』の正式タイトルは、『礼拝者の望みへの注釈における満足する者の富』*Ghunyat al-Mutamallī fī Sharḥ Munyat al-Muṣallī*である。同書は、礼拝についての著作であるカーシャーニーの『礼拝者の望み』*Munyat al-Muṣallī*への注釈である。この『富』を要約したものが『小ハラビー』である。また、『会合点』は『提要』の伝統に属する法学書である［EI^2 3: 90; DİA 15: 231-232］。
40　同作品の和訳と解説としてイブヌ・ル・ムカッファイ[1978]がある。
41　同作品の和訳と解説としてハリーリー［2008-9］がある。
42　五部作の内、三作品は邦訳がある［ニザーミー1971, 1977, 1981］。
43　オマル・ハイヤームの『ルバイヤート』には多くの邦訳が存在している。その代表例としては、オマル・ハイヤーム［2004］などがある。
44　タバリーの歴史書には英訳と解説がある［Ṭabarī 1989-2007］。
45　同書には英訳がある［Ibn Khallikkān 1842］。
46　『黄金の牧場』には邦訳がある［マスウーディー 1990-1998］。

歴史書や『清浄の園』*Rawżat al-ṣafā*などが見られる。また、オスマン朝期に書かれた史書も見られる［YF 25-1: 99b-118b］。

神秘主義の分野では、ガザーリー、イブン・アラビ―の著作に加えて、ジャラールッディーン・ルーミーの『マスナウィー』やハーフィズ、サアディーの詞華集が記載されている。また、哲学に分類されている書として、イブン・スィーナー、ナスィールッディーン・トゥースィーの著作の他、イブン・ハイサムによる『光学の書』*Kitâb al-Manâẓir*が目を引く[47]。算術では代数学を扱った著作、天文学ではチャグミーニーの著作などが見られる。

一方、ファーティヒ図書館の蔵書もマフムート１世によって大幅に増補された。以下はファーティヒ図書館に宮廷から寄贈された蔵書の一覧である［YB 241］：

注釈書	128（97）	読誦学	17（12）	伝承集成	227（121）	法概論	28（25）
法規則詳説	230（141）	神学	78（75）	神秘主義	278（198）	夢判断	7（3）
文学	177（146）	金言集	106（93）	歴史	172（101）	辞書	50（32）
医学	92（81）	論理学	38（33）	哲学	37（33）	天文学	18（18）
雄弁学	42（40）	文法	100（91）				

上表を見ると、ファーティヒ図書館の蔵書も、アヤソフィヤ図書館と同じ構成的特徴を示している。また個別のタイトルを見ても共通性が目にとまる。例えば、クルアーン注釈、法詳説の分野では、15・16世紀に見られた古典的著作が増補されている。これに加えて注釈・註解作品も数多く見られるが、そのタイトルにはアヤソフィヤと共通のものが見られる。また例えば文学でも多くの共通タイトルが見いだされるが、その一方でチャガタイ文学の旗手であったアリー・シール＝ナヴァーイー、後期ペルシア語文学を代表するアブドゥッラフマン・ジャーミー、飲酒詩で知られるアブー・ヌワースの詞華集が特筆される。歴史の分野では、預言者伝、世界史、地方史、諸王朝史、オスマン朝時代の史書が見られ、個別タイトルの点でもアヤソフィヤとの共通性が見られる。両コレクションは19世紀に入っても寄贈や移管によって増補を受け、さらに蔵書数を増やしていくこととなる。

おわりに

ここまで、ファーティヒ、アヤソフィヤ両図書館の設立と発展、そのコレクションの形成をまとめてきた。既に触れたように、図書館の発展は大きく二つの時期に分けることが可能であった。すなわち、15～18世紀および、18世紀以降である。15世紀から16世紀においては、図書館蔵書コレクションの形成に果たした宮廷の役割が重要であったと考えられる。この時代においては宮廷の蔵書数が、オスマン朝治下アナトリアやバルカンのどの

47　『光学の書』の英語訳と解説については次を参照［Sabra 1989］。

図書館蔵書をも上回っていたのである。また、学問振興という点においては、8メドレセを建設したスルタン・メフメト2世をはじめ、16世紀にスレイマニエ・メドレセを建設したスレイマン大帝など、オスマン朝15～16世紀における支配者の並々ならぬ努力があったこともつとに知られている。

一方、17世紀以降には、そうした政策の効果や社会における文化的発展の影響が見られるようになる[48]。そして18世紀には、マフムート1世がファーティヒ・モスク、アヤソフィア・モスクに図書館を建設し、それまでのメドレセ型のジャンルに加えて、文学や歴史、諸科学の書籍が多く寄贈された。こうした発展の背景には、ひとつには書籍ストックの増加が考えられる。例えば、図書館蔵書の多くは、以前には個人によって所有されていた本であった。そして、この時代に存在感を増していた政府行政職員によって文学や歴史書が所有される傾向も見られたのである［Sabev 2006: 272-276］。そして他方では、社会における需要があったと考えられる。例えば、サベヴは、18世紀にオスマン朝初の印刷所を開設したイブラヒム・ミュテフェッリカの成功に触れ、歴史書などへの需要を考察している［Sabev 2006: 179］。

また本稿において比較・検討したクルアーン注釈や法学書に目を向けてみると、15～18世紀においては、メドレセ教育で重要視された古典的な本文テキストおよび注釈が中心であった。18世紀以降では、本文の観点から見ると古典テキストの増補が続くと共に、古典時代、後代を含めた様々な著作が加わっていることが見られる。一方、注釈や註解についてもその種類が増加し、また著名な著者による作品が増える傾向が見られた。こうした傾向から、標準的な古典的著作の存在が知的伝統の一貫性および共通の知の土台を提供していたことがうかがわれる。その一方で、多種多様な本文／注釈・註解を学ぶことによって、情報量の増大と複眼的な知識・教養を養うことが可能になっていたと考えられる。また、共時的な観点から見ると、18世紀以降のファーティヒ、アヤソフィヤ図書館では、様々なジャンルにおいて蔵書構成の近い傾向が見られた。これは図書館レベルにおける標準的なテキストの存在を示唆すると考えられる。

最後に、本稿においては蔵書カタログの比較からコレクション構成を分析したが、現存写本コレクションからも個人の蔵書記録や書き込みといった情報を得ることができる。また図書館における書籍の移転や保存、増補などといった問題も重要である。これら諸情報との比較分析は今後の課題としたい。

（やました　しんご・本学非常勤講師）

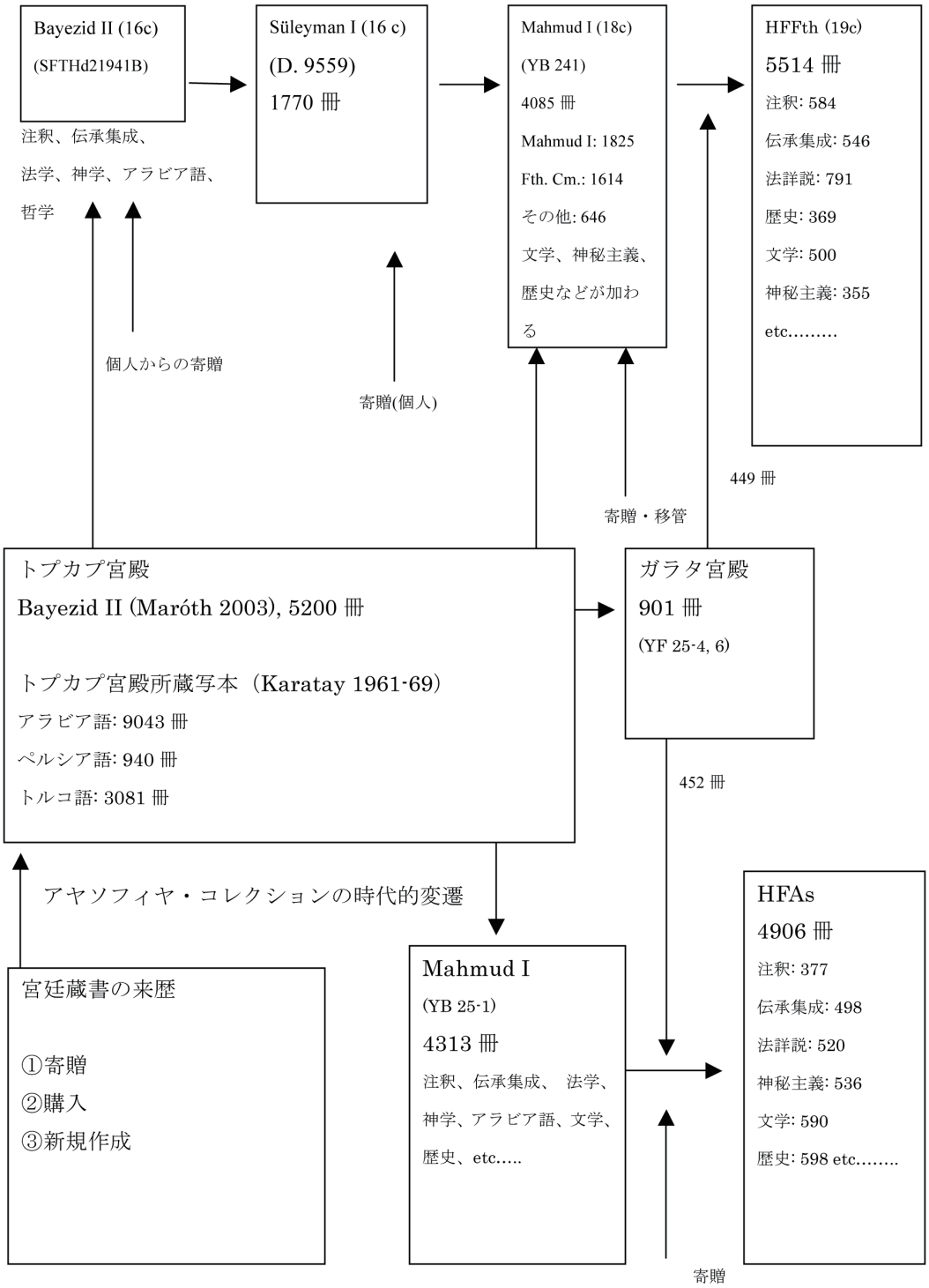
48　例えば、17世紀に活躍した大旅行家エヴリヤ・チェレビーは、イスタンブルに存在した書籍商店の数を60軒と見積もっている［Neumann 2005: 65］。

表１：オスマン朝治下において設立された図書館一覧

所蔵場所	場所	年代	冊数	蔵書構成
ダールル・ハディース	エディルネ	15c	300	注釈学、法学、伝承学他
イスハク・ベイ＝メドレセ	ウスキュプ	1445	30	注釈学、法学、伝承学他
イーサー・ベイ＝メドレセ	ユーゴスラヴィア	1468	330	注釈学、法学、伝承学、神秘主義、医学他
デミルタシュ救貧院	ブルサ	1440	126	注釈学、伝承学、法学、歴史、神秘主義、医学他
イブラヒム・パシャ救貧院	エディルネ	1465	99	注釈学、伝承学、法学、神秘主義、医学他
ワクフ	エディルネ	1480-1	19	神秘主義、宗教諸学
アリー・パシャ=メドレセ	イスタンブル	15c	116	注釈学、伝承学、法学、神秘主義、医学他
マフムート・パシャ＝メドレセ	イスタンブル	16c	185	注釈学、法学、伝承学他
メヴラーナー・バーリー＝モスク	イスタンブル	16c	620	
ワクフ	エディルネ	16c	19	
ワクフ	マニサ	16c	311	
ムヒイッディン・チェレビー＝メドレセ	イシュティプ	16c	25	
ハジュ・メフメト＝モスク	ソフィア	16c	小規模	
ワクフ	アンカラ	16c	24	
エミール・ブハーリー＝ザーヴィエ	イスタンブル	16c	小規模	
ワクフ		16c	53	
ワクフ	エディルネ	1521	11	殆どが宗教書
チョバン・ムスタファ・パシャ複合施設	ゲブゼ	1522	165	殆どが宗教書。若干の医学書。
ヒュセレヴ・パシャ＝メドレセ	ディヤルバクル	1530	60	
ダールル・ハディース	エディルネ	1535	77	
ワクフ	カイセリ	1559	400	注釈学、伝承学、法学、歴史他
リュステム・パシャ＝メドレセ	イスタンブル	1561	120	
マフムート・ベイ＝モスク	イスタンブル	1593	39	
マフムート・ヒュダーイー＝モスク	イスタンブル	1606	100	
ワクフ	イスタンブル	1624	30	
キョプリュリュ図書館	イスタンブル	1678	2300	注釈学、伝承学、法学、神秘主義、文学、歴史他
ワクフ		1686		半分は、歴史、文学、神秘主義
フェイズッラー・エフェンディ図書館	イスタンブル	1699	1965	
フェイズッラー・エフェンディ＝メドレセ	イスタンブル	1720	800	
ハジュ・ハリル・エフェンディ図書館	カイセリ	1754	318	注釈学、伝承学、法学、神秘主義他
ヌール・オスマニエ図書館	イスタンブル	1755	5000	注釈学、伝承学、法学、神秘主義、文学、歴史他
ベシル・アガ図書館	イスタンブル	1784	676	
ユースフ・アガ図書館	コンヤ	1794	904	注釈学、伝承学、法学、歴史、神秘主義、文学他
アーシル・エフェンディ図書館	イスタンブル	1800	1237	
エサド・エフェンディ図書館	イスタンブル	1846	5000	注釈学、伝承学、法学、神秘主義、文学、歴史他
ヒュセイン・アガ＝メドレセ	ブルサ	1885	987	

表２

ファーティヒ・コレクションの時代的変遷



参考文献

史料

[D. 9559] Topkapı Sarayı Müzesi Arşivi, D. 9559.

[HFAs] *Defter-i Kütüphane-yi Ayasofya,* Mahmut Bey Matbaası, 1886-1887.

[HFFth] *Defter-i Fatih Kütüphanesi,* Mahmut Bey Matbaası, 1---.

Ibn Khallikān. 1842. *Ibn Khallikan's Biographical Dictionary*. William McGuckin (tr). 4 vols. Paris.

[SFTHd 21941B] Başbakanlık Osmanlı Arşivi, D.HMH.SFTHd 21941B

Sabra, A.I. (ed. and tr). 1989. *The Optics of Ibn al-Haytham, Books I-III, on Direct Vision*. Kuwait.

Ṭabarī, M.J. 1987. *The Commentary on the Qur'ān*. John Cooper (tr). London.

————. 1989-2007. *The History of al-Tabarī*. Tr. by Franz Rosenthal et al. 40 vols. Albany.

[YB 241] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Bağışlar 241.

[YB 242] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Bağışlar 242.

[YB 243] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Bağışlar 243.

[YB 244] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Bağışlar 244.

[YF 25-1] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Fihristi 25-1.

[YF 25-3] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Fihristi 25-3.

[YF 25-4] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Fihristi 25-4.

[YF 25-6] MS İstanbul Süleymaniye Yazma Eserler Kütüphanesi, Yazma Fihristi 25-6.

史料（邦文翻訳）

イブヌ・ル・ムカッファイ著、菊池淑子訳（1978）『カリーラとディムナ：アラビアの寓話』平凡社。

オマル・ハイヤーム著、陳舜臣訳（2004）『ルバイヤート』集英社。

ニザーミー著、黒柳恒男訳（1971）『七王妃物語』平凡社。

————　、岡田恵美子訳（1977）『ホスローとシーリーン』、平凡社。

————　、岡田恵美子訳（1981）『ライラとマジュヌーン』、平凡社。

ハリーリー著、堀内勝訳（2008-9）『マカーマート：中世アラブの語り物』平凡社。

マーワルディー著、湯川武訳（2006）『統治の諸規則』慶應義塾大学出版会。

マスウーディー著、竹内新訳（1990-1998）「『黄金の牧場と宝石の鉱山』の第三～第六章をめぐって (1)～(5)」『大阪外国語大学論集』4, 5, 7-8, 20号、279－301, 267－290, 209－232, 237－253, 289－309頁。

書誌・著者情報

[DİA] Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi Genel Müdürlüğü. 1988-2013. *Türkiye Diyanet Vakfı İslâm Ansiklopedisi*. 44 vols. İstanbul.

[EI^2] H.A.R. Gibb et al. (ed). 1979-2004. *The Encyclopaedia of Islam*. 12 vols. Leiden.

[GAL 1-2] Carl Brockelmann. 1937-49. *Geschichte der arabischen Litteratur*. Vol. 1-2. Leiden.

[GAL S1-3] Carl Brockelmann. 1937-49. *Geschichte der arabischen Litteratur*. Supplement vol. 1-3. Leiden.

[KA] Şemseddin Sâmî. 1889. *Kâmûs el-A'lâm*. Vol. 6. İstanbul.

[KZ] Kâtip Çelebî. 1941-43. *Keşf-el-Zunun (Kashf al-Zunūn ʿan Asāmī al-Kutub wa al-Funūn)*. Şerefeddin Yaltkaya and Kilisli Muallim Rifat (eds). 2 vols. İstanbul.

[SO] Mehmed Süreyya. 1996. *Sicill-i Osmanî*. Transliterated by S.A. Kahraman. 6 vols. İstanbul.

先行研究

Ahmed, Shahab & Nenad Filipovic. 2004. "The Sultan's Syllabus: a Curriculum for the Ottoman Imperial Medreses Prescribed in a Fermân of Qânûnî I Süleymân, Dated 973 (1565)." *Studia Islamica* 98-99: 183-218.

Akgündüz, Ahmed. 1999. "Osmanlı Hukukunda Vakfın Konusunu Teşkil Eden Mallar ve Kitap Vakfı [The book waqf and properties constituting a waqf in the Ottoman Law]." In *Osmanlı Devleti'nde Bilim, Kültür ve Kütüphaneler,* ed. by Özlem Bayram et al. Ankara: 63-77.

Anastassiadou, Meropi. 2000. "Des défunts hors du commun: les possesseurs de livres dans les inventaires après décès musulmans de Salonique." *Turcica* 32: 197-252.

Baykal, İ.H. 1953. *Enderun Mektebi Tarihi*. İstanbul.

————. 1958. "Fatih Sultan Mehmed'in Hususi Kütüphanesi ve Kitapları [Fatih Sultan Mehmed's Private Library and his Books]." *Vakıflar Dergisi* 4: 77-79.

Can, Selman and E.Y. Altunbaş. 2015. "Ayasofya I. Mahmud Kütüphanesi ve Geçirdiği Onarımlar [Hagia Sophia Mahmud I. Library and its restorations]." *Atatürk Üniveristesi Güzel Sanatlar Enstitüsü Dergisi* 35: 181-222.

Cici, Recep. 2005. "Osmanlı Klasik Dönemi Fıkıh Kitapları [Books on Islamic Jurisprudence in the Ottoman Classical

Period]." *Türkiye Araştırmaları Literatür Dergisi* 3/5: 215-248.

Cunbur, Müjgân. 1963. "Yusuf Ağa Kütüphanesi ve Kütüphane Vakfiyesi [Yusuf Ağa Library and the Waqf Document of the Library]." *Tarih Araştırmaları Dergisi* 1/1: 211-217.

Çayırdağ, Mehmet. 1988. "Kayseri'de Vakıf Kütüphaneleri ve Matbah Emini Hacı Halil Efendi Kütüphanesi [Waqf Libraries in Kayseri and Matbah Emini Hacı Halil Efendi Library]." *Vakıflar Dergisi* 20: 265-288.

Dietrich, Albert. 1967. "Zur Geschichte einiger anatolischer Bibliotheken: Afyon, Akşehir, Çorum, Amasya." *Istanbuler Mitteilungen* 17: 306-311.

Dener, Halit. 1957. *Süleymaniye Umumî Kütüphanesi* [Süleymaniye Public Library]. İstanbul.

d'Ohsson, I.M. 1788. *Tableau général de l'Empire Othoman*. Vol. 2. Paris.

Erünsal, İsmail. 1988. "959/1552 tarihli Defter-i Kütüb [A boook catalogue dated in 959/1552]." *Erdem* 4/10: 181-193.

————. 1996. "Fatih Camii Kütüphanesi'ne ait en Eski Müstakil Katalog [The oldest independent catalog belonging to Fatih Mosque Library]." *Erdem* 9/26: 659-664.

————. 2008. *Osmanlı Vakıf Kütüphaneleri* [The Ottoman waqf libraries]. Ankara.

————. 2013. *Osmanlılarda Sahaflık ve Sahaflar* [Bookselling and booksellers among the Ottomans]. İstanbul.

Hanna, Nelly. 2003. *In Praise of Books: A Cultural History of Cairo's Middle Class, Sixteenth to the Eighteenth Century*. Syracuse, N.Y.

Hanioğlu, Şükrü. 2008. *A Brief History of the Late Ottoman Empire*. Princeton.

Imber, Colin. 1997. *Ebu's-Su'ud: The Islamic Legal Tradition*. Edinburgh.

Kaleşi, Hasan. 1965. "Yugoslavya'da İlk Türk Kütüphaneleri [First Turkish libraries in Yugoslavia]." *Türk Kültürü* 4/38: 169.

Karatay, F. E. 1961. Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi Türkçe yazmalar kataloğu [The catalog of Turkish manuscripts at the Topkapı Palace Museum Library]. 2 vols. İstanbul.

————. 1961. Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi Farsça yazmalar kataloğu [The catalog of Persian manuscripts at the Topkapı Palace Museum Library]. İstanbul.

————. 1962-1969. Topkapı Sarayı Müzesi Kütüphanesi Arapça yazmalar kataloğu [The catalog of Arabic manuscripts at the Topkapı Palace Museum Library]. 4 vols. İstanbul.

Karatay, Namdar. 1941. "Bursada Omurbey Vakıfnamesi ve Yeni Bulunan Mühim Bir Vesika [The Omurbey Waqf document in Bursa and a newly found document]." *Uludağ: Bursa Halkevi Dergisi* no. 35: 15-20.

Kut, Günay. 1999. "Sultan I. Mahmud Kütüphanesi [Sultan Mahmud I. Library]." In *Osmanlı Devleti'nde Bilim, Kültür ve Kütüphaneler*, ed. by Özlem Bayram et al. Ankara: 99-128.

Küçükkalfa, Ahmet. 1983. "Ayasofya Kütüphanesi: Ayasofya Library ve 30 Yıl Öncesine ait Kütüphane Yapıları'nın Mimarisi'ne dair Notlar [Notes on the architecture of the Hagia Sophia Library]." *İlgi* 17/37: 13-17.

Maden, Şükrü. 2013. *Tefsirde Hâşiye Geleneği ve Hâşiyetü Muhyiddin Şeyhzâde 'alâ Tefsîri'l-Kâdî el-Beyzâvî Örneği* [The tradition of super-commentary in Qur'anic exegesis and Muhyiddin Şeyhzâde's super commentary on the exegesis of Kâdî el-Beyzâvî]. Ph.D. Diss. İstanbul: Marmara University.

Malkoç, Neriman. 1956. "Ayasofya Kütüphanesi [Hagia Sohia Library]". *TTOK Belleteni* no. 170: 11-12.

Maróth Miklós. 2003. "The Library of Sultan Bayezid II." In *Irano-Turkic Cultural Contacts in the 11th-17th Centuries*, ed. by Éva M. Jeremiás. Piliscasaba.

Murphey, Rhoads. 2009. *Essays on Ottoman Historians and Historiography*. İstanbul.

Neumann, C.K. 2005. "Üç Tarz-ı Mütalaa: Yeniçağ Osmanlı Düyası'nda Kitap Okumak ve Yazmak." *Tarih ve Toplum* no. 241: 51-76.

Parmaksızoğlu, İsmet. 1959. "Manisa Kütüphaneleri [Libraries in Manisa]." *TKDB* 8/1: 18.

Pederson, Johannes. 1984. *The Arabic Book*. Princeton.

Reindl-Kiel, Hedda. 2009. "Power and Submission: Gifting at Royal Circumcision Festivals in the Ottoman Empire (16th-18th Centuries)." *Turcica* 41: 37-88.

Sabev, Orlin. 2006. *İbrahim Müteferrika ya da İlk Osmanlı Matbaa Serüveni (1726-1746)* [İbrahim Müteferrika or the first Ottoman printing press (1726-1746)]. İstanbul.

Stanley, Tim. 2004. "The Books of Umur Bey." *Muqarnas* 21: 323-331.

Tezcan, Baki. 2007. "The Politics of Early Modern Ottoman Historiography." In *the Early Modern Ottomans*, ed. by Virginia H. Aksan. Cambridge: 167-198.

Unan, Fahri. 2003. *Kuruluşundan Günümüze Fatih Külliyesi* [The Fatih Mosque complex from its establishment to today]. Ankara.

Uzunçarşılı, İ.H., 1988. *Osmanlı Devletinin İlmiye Teşkilâtı* [The scholary organization of the Ottoman Empire]. 3. ed. Ankara.

Ünver, Süheyl. 1946. *Fatih Külliyesi ve Zamanı İlim Hayatı* [The Fatih Mosque complex, his time and the scientific life].

İstanbul.
————. 1970. “Çelebi Sultan Mehmed Hususi Kütüphanesi [Çelebi Sultan Mehmed’s Private Library].” *TKDB* 19/4: 291-295.
Yüksel, Murat. 1984. “Kara Timurtaş-oğlu Umur Bey’in Bursa’da Vakfettiği Kitaplar ve Vakıf Kayıtları [Kara Timurtaş-oğlu Umur Bey's Books and waqf records in Bursa].” *Türk Dünyası Araştırmaları* 31: 134-147.

青柳かおる（2005）『イスラームの世界観：ガザーリーとラーズィー』明石書店。
阿久津正幸（2002）「アレッポのイスラム・ワクフ図書館写本目録と「写本の考古学」」『オリエント』45巻２号、165-183頁。
小杉泰、林佳世子（編）（2014）『イスラーム 書物の歴史』名古屋大学出版会。
澤井真（2010）「イスラームの死生観」『東北宗教学』６号、83–104頁。
長谷部史彦（2017）『オスマン帝国治下のアラブ社会』山川出版。
ロジェ・シャルチエ著、長谷川輝夫訳（1996）『書物の秩序』筑摩書房。
和田 敦彦（2014）『読書の歴史を問う：書物と読者の近代』笠間書院